

文化・芸術に関するアンケート（やまとeモニター）まとめ

調査概要

条例骨子に市民の声を反映させるため、eモニターシステムを利用してアンケートを実施しました。

実施期間	平成 20 年 10 月 25 日（土）～11 月 2 日（日）
配信件数	824 件
回答件数（回答率）	440 件（53%）
質問	
Q 1：あなたが、「文化・芸術」という言葉から連想するものを【3つ】選んでください。	
Q 2：あなたは、文化・芸術の【鑑賞】や【講演聴講】などをどの程度していますか？	
Q 3：あなたは、文化・芸術の【活動】を自ら行っていますか？	
Q 4：大和市の文化・芸術の取組みについてどのように感じていますか？	
Q 5：文化・芸術を振興するために市が取り組むべきと思うことを【3つ】選んでください。	
Q 6：文化・芸術を振興するために力を入れるべきと思う対象を【3つ】選んでください。	
Q 7：文化・芸術を振興するための基本的な考え方として、適切と思うものを【2つ】選んでください。	

回答と解析

「文化・芸術」から連想するのは、「美術」、「音楽」、「演劇」が上位。「文化財」、「伝統文化」が続く。

「文化・芸術」という言葉から連想するもの（Q 1）は、美術、音楽、演劇などが上位を占め、鑑賞する立場での回答が多く見られ、文化財や伝統文化がこれに続きました。

多くの人々が鑑賞する「文化・芸術」を連想する一方で、文化財保護や伝統文化継承の重要性を認識している人も多いことが分かります。

Q 1：あなたが、「文化・芸術」という言葉から連想するものを【3つ】選んでください。			
美術・絵画・写真	299人(68%)	文学・小説	61人(14%)
音楽・コンサート	258人(59%)	茶道・華道・書道	56人(13%)
演劇・ミュージカル	143人(33%)	舞踏・ダンス	26人(6%)
歌舞伎・能楽	138人(31%)	映画・アニメ	27人(6%)
文化財・遺跡	118人(27%)	落語・漫才	16人(4%)
伝統行事・祭り	116人(26%)	俳句・短歌	11人(3%)

文化・芸術の鑑賞、活動が半年に1回以下の人が65%

文化芸術の鑑賞・聴講（Q 2）と活動（Q 3）をしている人は下表のとおりであり、活動のみならず鑑賞・聴講も7割が半年に1回以下と文化・芸術に触れる機会を持つ市

民の割合はかなり低いことが分かりました。

	Q2：あなたは、文化・芸術の【鑑賞】や【講演聴講】などをどの程度していますか？	Q3：あなたは、文化・芸術の【活動】を自ら行っていますか？
ほとんどしていない	163人(37%)	329人(75%)
半年に1回程度	146人(33%)	34人(8%)
2～3ヶ月に1回程度	86人(20%)	19人(4%)
月に1回以上	40人(9%)	53人(12%)

また、上記をクロス集計した結果、「鑑賞も活動も半年に1回以下」の人が65%を占めました。

Q2 + Q3のクロス集計	
鑑賞も活動も半年に1回以下	287人(65%)
鑑賞は3か月に1回以上するが活動はしない	81人(18%)
活動は3か月に1回以上するが鑑賞はしない	27人(6%)
鑑賞も活動も3か月に1回以上	45人(11%)

以上から、策定中の第8次総合計画で指標としている「文化や芸術活動が盛んに行われていると思う市民の割合」（現状値36.6%）を上げるためには、上記の「鑑賞も活動も半年に1回以下」の市民に対して、Q1で上位を占めた美術、音楽、演劇鑑賞の機会を増やすことが効果的といえます。

「市は文化・芸術にもっと力を入れるべき」と考えている人は75%

特に「文化芸術に触れる機会を増やして欲しい」が47%

市の取り組みに対する意見（Q4）では、「文化・芸術に触れあう機会を増やして欲しい」（47%）が圧倒的に多く、「イベントを開催して欲しい」（20%）、「活動をサポートしてほしい」（8%）を合わせると75%に上り、4人に3人が市は文化・芸術振興にもっと力を入れるべきと考えています。

一方で、4人に1人は、現状維持または縮小すべきと考えており、自由記述欄を見ると、その理由として、文化・芸術施策に優先してやるべきこと（福祉施策など）があると感じている人が多いことが分かります。

Q4：大和市の文化・芸術の取り組みについてどのように感じていますか？	
もっと市民が文化・芸術に触れる機会を作って欲しい	205人(47%)
もっと文化・芸術イベントを開催して欲しい	88人(20%)
現状のままでよい	82人(19%)
もっと市民の文化・芸術活動をサポートして欲しい	33人(8%)
取り組みを縮小しても良い	22人(5%)

市が取り組むべきことは「情報発信・啓発活動」、「イベント開催」、「施設の充実」。

市が取り組むべきこと（Q5）は、「情報発信・啓発活動」（42%）、「イベント開催」（41%）と、多くの人が鑑賞や参加をするための情報や機会を提供すべきと考えています。

また、「施設の充実」（34%）は、自由記述欄でも多くの人がホール建設をはじめとする施設整備を訴えており、数もさることながらホールに対する思い入れが強いことが分かります。

Q5：文化・芸術を振興するために市が取り組むべきと思うことを【2つ】選んでください。	
情報発信や啓発活動	183人（42%）
イベントの開催	181人（41%）
施設の充実	151人（34%）
活動支援	108人（25%）
活動する団体や人の交流	71人（16%）
文化の継承と保護	72人（16%）
芸術家等人材の育成	53人（12%）
表彰・顕彰制度	11人（3%）

Q4で約5割を占めた「もっと文化・芸術に触れる機会を作って欲しい」という回答は表現がやや抽象的ですので、この回答者がQ5（市が取り組むべきこと）において何を選んで探りました。クロス集計の結果、「情報発信」、「イベント開催」、「施設の充実」が、それぞれ設問全体の傾向より若干高い数値を示しています。芸術・文化に触れる機会を増やすためには、この3施策の充実が必要といえます。

	Q4 + Q5のクロス集計		Q5回答結果
Q4：もっと市民が文化・芸術に触れる機会を作って欲しい+	Q5：情報発信や啓発活動	93人（45%）	183人（42%）
	Q5：イベントの開催	93人（45%）	181人（41%）
	Q5：施設の充実	81人（40%）	151人（34%）
	Q5：活動支援	40人（20%）	108人（25%）
	Q5：団体や人の交流	35人（17%）	71人（16%）
	Q5：文化の継承と保護	31人（15%）	72人（16%）
	Q5：芸術家等人材の育成	26人（13%）	53人（12%）
	Q5：表彰・顕彰制度	3人（1%）	11人（3%）

「文化芸術振興のために力を入れる対象」は、子ども、若年層が圧倒的。

文化芸術を振興するために力を入れるべき対象（年代）（Q6）は、「小・中学生」（67%）、「高・大学生」（41%）が、「高齢者」（23%）以下を引き離す結果となり、多く人が子ども、若年層を中心に施策を展開すべきと考えています。

自由記述でも、子どもの豊かな心を育て可能性を広げるため、小・中学生の文化・芸術に触れる機会を増やすべきとの意見が多くありました。

Q 6：文化・芸術を振興するために力を入れるべきと思う対象を【2つ】選んでください。	
小・中学生	296人(67%)
高校・大学生	181人(41%)
高齢者	101人(23%)
成人男性	79人(18%)
成人女性	78人(18%)
幼児	73人(17%)
その他	28人(6%)

また、Q 4で「もっと文化・芸術に触れる機会を作って欲しい」という回答をした人が「振興をするために力を入れるべき対象」(Q 6)において、どの年齢層を選んだかをクロス集計しました。

結果は、Q 6の回答傾向とほぼ同じであり、「小・中学生」(68%)、「高校・大学生」(41%)が他を大きく引き離しています。このことから、子ども・若年層に文化・芸術に触れる機会を作るべきと考えている人が多いことが分かります。

Q 4 + Q 6のクロス集計			Q 6回答結果
Q 4：もっと市民が文化・芸術に触れる機会を作って欲しい+	Q 6：小・中学生	139人(68%)	296人(67%)
	Q 6：高校・大学生	83人(41%)	181人(41%)
	Q 6：高齢者	51人(25%)	101人(23%)
	Q 6：幼児	38人(19%)	73人(17%)
	Q 6：成人男性	34人(17%)	79人(18%)
	Q 6：成人女性	34人(17%)	78人(18%)

高齢者、成人女性(主婦層)が意外に伸びませんでした。これは「成人は自分のお金で好きな物に触れる機会が多いので」(自由記述)という意見に代表されるように、大人は個人の選択に任せるべきと考えているためと思われます。

振興のための基本的な考え方も「市民が文化芸術に触れる機会を創出する」が60%文化・芸術を振興するための基本的な考え方(Q 7)を聞いたところ、市の取り組み(Q 4)の回答でも5割を占めた「市民が文化・芸術に触れあえる機会を創出する」(60%)が、「地域に根ざした伝統ある文化・芸術を伝承する」(29%)以下を大きく引き離す結果となりました。

Q7：文化・芸術を振興するための基本的な考え方として、適切と思うものを【2つ】選んでください。	
より多くの市民が文化・芸術に触れあえる機会を創出する	265人(60%)
地域に根ざした伝統ある文化・芸術を伝承する	127人(29%)
文化・芸術によって市民の心を豊かに(健康に)する	117人(27%)
文化・芸術に対する市民の多様な価値観を尊重する	88人(20%)
文化・芸術を振興するために市民と市は協働する	86人(20%)
文化・芸術に対する市民の自主性、創造性を尊重する	85人(19%)
文化・芸術を振興するために市は市民を支援する	77人(18%)
その他	4人(1%)